

2011.7.1

101

もくじ

- 5 ◆ 伝統行事・芸能功労者に聞く
後継者に伝えたいこと。望むこと。
表紙写真解説 守り伝えよう京都の文化財—助成文化財の紹介
千本ゑんま堂大念仏狂言—郷土芸能の後継者

- 6 ◆ 特集 知られざる京都の文化財③
「祇園祭保昌山前懸脣懸下絵」
京都市文化市民局文化芸術都市推進室 文化財保護課技師

- 9 ◆ 保護財団の活動

安井 雅恵



公益財団法人 京都市文化観光資源保護財団
Kyoto cultural tourist resources protection foundation

今 幸報



後継者に伝えたいこと。望むこと。

京都には、長い歴史を伝える行事や芸能が数多く伝承されています。

京都市文化観光資源保護財団では、毎年京都の伝統行事・芸能の保存継承に長年にわたり貢献されてこられた功労者の方の表彰を行っています。この表彰制度では、これまでに486名の方々を表彰し、その功績を称えてまいりました。

平成22年度にこの表彰を受賞されました皆さんに『後継者に伝えたいこと。望むこと。』をテーマにご意見をそれぞれ寄せていただきましたので、ご紹介することにします。



平成22年度

伝統行事・芸能功労者表彰を受賞された皆さん

賀茂競馬保存会	堀川 潤
藤森神社駢馬保存会	清水和三郎
北白川伝統文化保存会	西村 知道
鞍馬火祭保存会	田中 義一
久多宮の町松上げ保存会	北中 透
一乗寺八大神社剣鉾保存会	井上 喜多
嵯峨祭剣鉾保存会	山田 幸忠
梅ヶ畠剣鉾保存会	吉岡 忠嗣
	孝治 幸雄
	(65) (72) (50) (80) (65) (63) (82) (57)
蹴鞠保存会	大空 幸雄
平安雅楽会	喜多 幸雄
吉祥院六斎保存会	山田 忠男
梅津六斎保存会	金子 忠男
今宮やすらい会	瀬戸 正樹
市原ハモハ尼講中	上田 幸司
一乗寺郷土芸能保存会	西村 正久
(敬称略・順不同) カッコは年齢	(76) (71) (61) (45) (78) (75) (60)



平成22年度 伝統行事・芸能功労者表彰式

皆さんにとって 伝統行事・芸能とは。

◆京都で行われる行事や芸能は、京都の財産であり、日本の宝です。私がかかわっている賀茂競馬は、918年間続く行事で、私の家は上賀茂神社に奉仕する旧社家で、これまで代々奉仕してきました。私も参加することになりこれまで奉仕し、次第に継続させていくことの重要性、祭事を支えていくことに今では喜びを見出しています。

(堀川さん)

◆地域住民として、伝統行事は地元の文化であり保存継承していく責任があると思います。

(清水さん)

◆最初は、うまく出来ずに苦闘の連続でしたが、行事がいかに地元の皆さんから大切にかつ、尊厳性が高いのかということがわかり、これまで続けられてこられました。

(井上さん)

◆子供の頃、父が剣鉾を差していくので祭りが近づくと練習を毎日見学していました。中学生になり自分も練習するようになり、指導を受け青年団に入り従事するようになりました。

(嵯峨祭剣鉾保存会・山田さん)

◆京都に育ち、若い頃から鑑賞側でいましたが、知人からの誘いで蹴鞠に関わることになりその奥義を垣間見るようになってきてから「鞠道」にのめり込み、還暦を迎えた今日元気で居られるのは、「蹴鞠」に関われる機会を得た事と考えています。

(大空さん)

◆六斎念仏は、長い歴史と伝統を持つ芸能で京都市民や観光客によく親しまれています。私達の頃は、15歳になると青年会（現在の保存



嵯峨祭の剣鉾差しの練習に取り組む子供たち

会）に入会してお互い技を競いあつたものです。

(吉祥院六斎保存会・山田さん)

◆昔から受け継がれてきた伝統芸能は、やはり奥が深いと思います。小学校の高学年の時に参加しましたが、沢山の方に見ていただき楽しんでいただきたいです。

(金子さん)

◆私にとっては、小学校1年生以来続けてきたもので、今では切っても切れない生活の一部になっています。

(上田さん)

長年にわたり 取組んでこられた原動力は。

◆高盛の小芋を2・3人で円錐形に積み上げていく担当をさせいただいているが、かなりの技術を必要とする作業です。いつか、一人で積み上げたいと思い励んでいます。

(北白川伝統文化保存会・西村さん)

◆私は、当年82歳に成りましたが、これまで見習い教えられながら今日まで続けられてきました。火の神と崇められる愛宕神社に関わる行事で、人手不足や行事が出来ない時は火災や災難がおこると伝えられていることから今まで地域

をあげて続けられてこられました。

(北中さん)

◆やはり地元の人々との関わり、特に年配の方々から尊厳性をもつて剣鉾をとらえられていることを痛感し、地元で生まれている者として継承していく益々発展させていきたい。続けていくにあたって、良き先生と剣鉾を盛り上げていこうという若者と多くの交流をもてたことが良かったと思います。

(井上さん)

◆18歳から長年続けてこられた原動力は、地域の人の支え、先人の指導のおかげと思っています。この伝統行事を自分が後世に残したい一心でした。練習中は、剣鉾を倒し迷惑もかけましたが、指導者の心遣いで挫折しなかったことが、今日の私が有ると思います。

(吉岡さん)

◆奏楽とは別に、後継者の育成に努める事を担っています。若手が諸行事で活躍してくれていますが、更に高度の技量の稽古に励んでいます。この人達の上達の様子が、私自身の向上心の原動力として普段の練習を疎かに出来ません。この人達が、いずれ指導者として次の世代に伝承してくれる事を願っています。

(喜多さん)

六斎は、やはり演者も楽しめるのが良いところではないでしょうか。演目も沢山ありますが受け継ぐのが難しく、保存会の方も高齢になられ教えてもらうのが困難になってしまっているのが残念です。

(金子さん)

◆祖父以来、引き継いできた氏子としての责任感と将来に自分の子孫に継承していくということを生きがいにしています。（上田さん）

▲唄うことが好きだったので、これまで取り組んでこられました。地域のために多少でも役に立ちたいと思っています。今後も地域の郷土芸能をより一層の努力をして発展させていきたいと思っています。
（瀬戸さん）

(瀬戸さん)

今後将来に伝承していくために、
後継者に伝えたいこと。望むこと。

◆京都で生まれ育った者には、その歴史や伝統文化が身近にあり、あたりまえのように感じますが、仕事の関係で京都を離れてみて、日本の歴史そのものが息づく街とその贅沢な環境に離れてみてはじめて感じことがあります。日本の伝統文化とは、日本の中であり自分達が継続していくという



誇りと強い意思をもって参画願いたいと思います。(堀川さん)

◆駆馬神事には、行事に必要な多くの要素があります。世話方、乗子とともに神事の全ての要素を理解して頂きたいと思います。又、世話方を経験して、安全にかつ、盛大に後世に保存継承していくことをお願いしたいと思います。

(清水さん)

◆与えられた役割は、何であれ頑張って欲しいです。高盛御供献饌の儀を簡素かせず、本来に戻して執り行いたいと思っています。

◆現在、どの伝統行事も後継者不足ということが問題となり、私どもの剣鉾においてもここ15年くらい後輩と呼べる方の入会がなく



京都を代表する民俗芸能「六斎念仏」の技芸を披露する子供たち。
(写真は、「京の郷土芸能まつりー大集合！京都の六斎念仏」より)

今後の大大きな課題となっています。まず一度剣鉾を体験してもらい、京都という歴史ある所で長年かけて発展してきた行事を理解してもらい若者に携わっていただきたいと思います。私としても色々な場所で、アピールし、この京都独特的文化に携わることを伝えていきたいです。

◆剣鉾差しの後継者が少なく、育成する為に子供用の剣鉾を新調し、小学生に親子参加で練習の様子を見学してもらい後継者育成に協力をお願いしています。

(嵯峨祭劍銘保存会・山田さん)

◆現在、梅ヶ畠には約20名の剣鉾差しがおり、この人達が同じ様にこの行事を伝承させて欲しいと思います。又、地域の若者が一人でも多く参加して、地域を盛り上げて欲しいと思います。（吉岡さん）

◆私自信35年にして志途中であり、更に研鑽に尽きるとも考えています。後継者の人達も毎回のお稽古の度に目標をもって、到達するまで追求していただきたい。今年度より小中学生以上の子ども達に指導を始めたいと思っています。そして、一人でも多くの人に蹴鞠を知ってもらい参加して頂きたいと考えます。

◆私は、雅楽が心の拠り所です。雅楽の技量を伝承育成する為、葵祭をはじめいずれの行事においても使命感を抱いて奏楽しています。

(喜多さん)

◆近年は、小学生を中心に中高生を交えた子供六斎会が結成され、後継者育成が計られています。保存会員の高齢化の為、保持曲目が減少していますので、子供六斎会の育成が急務です。保存会が一層の努力をして行かねばなりません。

(吉祥院六斎保存会・山田さん)

◆京都には、古くからの素晴らしい伝統芸能が沢山ありますが、もっと多くの人に後継されるように広く募って後世に残されるようご協力をお願いします。

(金子さん)

◆諸先輩から引き継いできた伝統芸能を、形を変えずに後世に伝えたい。マニュアルも何も無い伝統芸能を正確に伝えていきたいし、後輩にも厳しくしていきたい。

(上田さん)

◆一昨年より小学校の協力を得て、

児童に地域の郷土芸能の指導を行っています。このような事が今後広く生かされるよう指導し伝えていきたいと願っています。

(瀬戸さん)

◆古い起源をもち京都市無形民俗文化財でもあるこの芸能を、保存会員自らが能力向上につとめ、音頭と踊りの披露にも力を入れながら、後継者育成に十分留意して活動を続けていきたいと考えています。

(一乗寺郷土芸能保存会・西村さん)

表紙写真解説

守り伝えよう京都の文化財－助成文化財紹介

千本ゑんま堂大念佛狂言－郷土芸能の後継者

京都の念佛狂言は、もとは仏の教えを民衆に説くために始められたもので、宗教色の強いものでした。その後、能、狂言などを取り入れて芸能化した京都を代表する民俗芸能です。壬生寺の壬生狂言、嵯峨清涼寺の嵯峨念佛狂言、神泉苑の神泉苑狂言に京都市上京区の引接寺（通称：千本ゑんま堂）の千本ゑんま堂念佛狂言（京都市登録無形民俗文化財）が今日に伝えられています。

千本ゑんま堂念佛狂言の起源は、引接寺を開いた定覚上人が布教のために始めたと伝えられ、その後途絶え、鎌倉時代の如輪上人が再興したものと伝承されています。他の狂言のほとんどの演目が無言劇であるのに対し、演目のほとんどが、せりふ劇であるところに大きな特徴があり、室町時代から江戸時代にかけて描かれた狩野永徳筆の「洛中洛外図」にも登場しています。現在、毎年5月1日から4日にかけ引接寺（千本ゑんま堂）境内の舞台において定期公演が行われています。



日頃の練習の成果を披露し、熱演する若い2人。



京都市登録無形民俗文化財「千本ゑんま堂念佛狂言」

現在継承されている演目は、25番を上演し、うち二番の演目では子供の演者が登場します。保存会では、後継者の養成に積極的に取り組んでおられ、小学生や若者が日夜練習に励み、活躍しています。表紙の掲載写真は、今年5月の定期公演で小学3年生の嶋 泰智くんと高校生の田尻 拓さんの若い2人が熱演した演目『芋汁』の一場面です。

京都市文化観光資源保護財団では、京都の貴重な伝統芸能である千本ゑんま堂念佛狂言の活動にこれまで助成を行い、その保存継承を支援しています。

撮影 神崎順一

京都の郷土芸能の保存伝承のための
後継者の養成に皆様のご支援をお願いします。

～1949？）の『祇園会山鉾大觀』に行きあたります。若原史明は祇園祭の山鉾の歴史と装飾品を詳しく調べた在野の歴史家で、克明な調査ノートを残しました。それが、史明の没後まとめられ、『祇園会山鉾大觀』として昭和57年に刊行されます。その中で、保昌山の懸装品について2回触れ、その片方が「張騫に虎」「巨靈人に鳳凰」となっています。単純な錯誤ですが、『祇園会山鉾大觀』の影響力は大きく、これ以後、「張騫に虎」「巨靈人に鳳凰」が定着し、現在に至ったと思われます。

では、「巨靈人と虎」「張騫と鳳凰」の組み合わせで先行作はあるでしょうか。

まず、巨靈人と虎を描いた作品は複数挙げられます。例えば、橘守国『絵本写宝袋』（享保5年〈1720〉明和7年〈1770〉再板版）には、巨靈人と虎が挿絵に描かれ、本文にも「巨靈人（中略）白虎を愛す」と記されています（図5）。

他方、張騫には浮き木に乗って黄河を遡り、天の川に至ったという不思議な伝説があり、17世紀の画題集である『後素集』の神仙の項目にも「乘槎図 張博望（張騫のこと）漢人 浮木に乗、こき行て牽牛織女に逢也」と記されています。流木に乗る張騫図の作例も複数指摘されており（杉原たく哉「張騫図と乗槎説話」〈松枝到編『象徴図像研究—動物と象徴』言叢社、2006年〉）、「舞踊図屏風」（京都市蔵、図6）の画中画にも描かれています。また、張騫はザクロを東方にもたらしたとされ、応挙の下絵のザクロはこれを示すと思われます。唐子の持つ経巻は、漢に多大な恩恵をもたらした西域の知識を暗示するものではないでしょうか。

そして、張騫と巨靈人に共通することは、水に深く関わりがある点で、両者が波上に描かれたのはそのた



図6 「舞踊図屏風」（上下反転）張騫の扇面

めでしょう。つまり、胴懸の二人物は、明治8年の書上げのとおり、「張騫と鳳凰」「巨靈人と虎」とみなせます。

しかし、いろいろな問題が残っています。その最たるもののは、前懸の主題です。江戸後期の人々が仙人を見たように、前懸の人物については、武人の蘇武よりも、岩を羊に変えた仙人の黄初平を充てたほうが適切かとも思われますが、応挙が描いた他の「黄初平図」では、黄初平を青年の姿で描いており、老人の例を見いだせていません。「蘇武牧羊図」という伝承を積極的に訂正する材料がないため、現状では主題の特定は保留ということになります。

おわりに

応挙の下絵の主題探しは、町内の伝承が「不可解だ」というところから始まりました。調査当初は、別の「正解」があるだろうという思い込みで、仙人の図様を求めて右往左往しましたが、行き着いたのは伝承通りの人物だったわけで、不可解であろうと町内の伝承を軽視すべきではないという、ごく当たり前の教訓を再認識しました。このケースと同様、不思議な題名が伝承される山鉾の装飾品は他にもあります。のみならず、各山鉾の名前の由来となっている御神体人形ですら、現代人からすれば「何故これを選んだのか」というものがあります。当時の常識や感覚と、我々のそれとの間には、想像以上に大きな溝が横たわっています。その溝を少しづつ埋め、一歩、また一歩と向こう側へ近付く手ごたえが調査の醍醐味でもあります。応挙の下絵も、ようやく細い道が途中までついたところ。今後も調べ続けたいと考えています。

（京都市文化市民局文化芸術都市推進室文化財保護課技師）



図5 『絵本写宝袋』巨靈人
富山大学附属図書館所蔵

保護財団の活動

新法人の運営にご支援、ご協力をお願いします。

京都市文化観光資源保護財団は、平成23年4月1日付をもちまして公益財団法人に移行し、新たな法人としてスタートしました。今後とも一層の充実発展につとめてまいりますので、皆様のご支援、ご協力をよろしくお願いします。

又、会員登録や寄附金のお取り扱いもこれまでと変わっていますので、ご不明な点は、事務局までおたずね下さい。

保護財団の活動を紹介する新パンフレットを作成しました。

新法人としての活動内容をくわしく紹介するため、このたびパンフレットを新しく作成しました。当パンフレットを通じて、保護財団の活動を広く紹介し、多くの方々のご参加・ご支援を積極的に呼びかけていくことにしています。会員の皆様のお知り合いの方で入会をご希望される方がおられましたらご送付しますので、事務局までご連絡下さい。



新法人として、初めての通常理事会、定時評議員会を開催しました

去る6月6日に通常理事会を開催しました。理事会では顧問並びに常務理事の選任、諸規則・規程の制定・改定、常勤役員の報酬などが決議されました。

又、6月20日には定時評議員会を開催し、平成22年度事業報告並びに収支決算、理事・評議員の一部異動などの議案が承認されました。

役員並びに評議員の一部異動

これまでに下記のとおり顧問、理事並びに評議員の方々の一部異動がありました。

(新任)

◎顧問

小林 正明（京都市会議長）

◎常務理事

平竹 耕三（京都市文化市民局文化芸術担当局長）

◎理事

小林 昭朗（京都市会くらし環境委員長）

西田 厚聰（社団法人日本観光振興協会会长）

◎評議員

西野 敏哉（住友信託銀行株式会社執行役員京都支店長）

北原 茂樹（京都府旅館ホテル生活衛生同業組合理事長）

小林 靖治（三菱UFJ信託銀行株式会社執行役員京都支店長）



通常理事会

(退任)

◎顧問

加藤 盛司

◎理事

鈴木 正穂、山岸 吉和、中村 徹

◎評議員

今井 孝至、山本 忠彦（死去）、竹内 伸行

平成23年度 助成事業の相談受付を行い、55件の申請がありました。

平成23年度文化観光資源保護助成事業について、本年度の募集要項に基づきこれまでに事前相談及び受付を行ったところ55件の助成申請がありました。

内訳は、文化観光資源保護事業8件、伝統行事・芸能の保存及び執行事業45件、自然環境保全事業1件、施設整備事業1件となっています。

助成申請のあった主な事業は、文化観光資源保護事業の部では、建仁寺（京都

市東山区）三門修理工事、禅林寺「和漢朗詠色紙貼交屏風絵」六曲一双屏風、真正極楽寺（京都市左京区）六曲一双屏風のうち一隻「花車図」修理、財団法人冷泉家時雨亭文庫（京都市上京区）主屋障壁画「山水図」等修理、知恩院（京都市東山区）宝蔵修理工事、觀音寺（京都市上京区）大玄関修理工事などがありました。

伝統行事・芸能の保存、執行事業の部では、葵祭をはじめとする四大行事や京都市域に伝承されている行事・芸能各保存会の公開事業や祇園祭山鉾連合会の祇園祭山鉾修理事業などがありました。

今後、助成申請がありました保護事業の実態調査及び資料収集、写真記録などを行い調査報告書を作成のうえ、文化財専門委員会で審議、選定いただくことになります。

管理する史跡・名勝について、各地元地域の保存団体と連携し維持保存につとめます。

また、樹木伐採・除草などの定期整備を行っています。

京都市より委託を受け、維持管理を行っています史跡・名勝のうち、名勝雙ヶ岡保存会、史跡天皇の杜古墳保存会、櫻原廃寺跡史跡公園保存会、方広寺石塔保存会、史跡蛇塚古墳保存会、史跡西寺跡保存会、史跡御土居保存会の各地元地域の保存団体と今年度も契約を締結し、各対象史跡、名勝の見回りや除草・清掃をお願いし、相互が連携して維持保存につとめていくことにしています。

又、各史跡、名勝の適正な景観を保つため、樹木伐採や除草などの定期整備を行っています。

尼門跡寺院「靈鑑寺」文化財特別公開事業を実施しました。

京都市左京区鹿ヶ谷にあります尼門跡寺院「靈鑑寺」の文化財特別公開事業を4月1日～10日に実施しました。普段は、非公開の京都市指定文化財の本堂、書院の建築や約30種類の椿が咲く庭園などを鑑賞していただきました。公開期間中、延べ7,960人もの多くの方が鑑賞されました。



景観整備を行った史跡方広寺石塔「耳塚」



「史跡櫻原廃寺跡」の説明板屋根を修復



“京の文化財ペーパーコースター”“オリジナルポストカード”を作成しました。

保護財団が、これまで助成を行い、修復されました文化財絵画を取り上げたペーパーコースターを作成しました。これは、会員の有志の方々からの贊助金をもとに作成したもので、ご利用いただくことで京都の文化財を身近に感じていただこうことを主旨にしています。今回、掲載しています絵画は、次の5点です。

- 妙心寺隣華院所蔵 客殿障壁画『波・龍図』京都市指定文化財)
 - 三時知恩寺所蔵『花鳥図』屏風(京都市指定文化財)
 - 禅林寺(永觀堂)所蔵 古方丈障壁画『牡丹孔雀図』
 - 建仁寺靈洞院所蔵『犬追物図』屏風
 - 泉涌寺悲田院所蔵 本堂襖絵『松猿図』

このペーパーコースターは、森林資源・水資源を保護し、
CO₂の排出を抑えることを目的に開発された木材など一切使
用していない石から抽出された環境紙を使用しています。

又、京都を代表する伝統行事“葵祭”“祇園祭”“時代祭”的三
大祭と“史跡 蛇塚古墳”的各オリジナルポストカードを作成しました。三大
祭には、毎年助成を行い行事の保存執行につとめており、“史跡 蛇塚古墳”
は保護財団が管理をしています史跡です。ポストカードに掲載しています写
真は、写真家の神崎順一氏の撮影によるものです。

いずれも非売品で，“京の文化財ペーパーコースター”は、特別寄附金にご寄附をいただいた方に，“史跡 蛇塚古墳”ポストカードは、一般寄附金にご寄附をいただいた方にそれぞれ進呈することにしています。又，“京の三大祭”ポストカードは、三大祭各観覧招待事業等において配布し、新会員募集など



ペーパーコースター



オリジナルポストカード

非公開文化財特別公開事業を実施します。

普段は、非公開の文化財や観光資源を公開していただくことで、文化観光資源保護の普及啓発を図り又、所有者の文化財や観光資源の維持管理の負担を軽減していただくため、事業の実施を通じて援助を行うものです。

京都市指定文化財「長江家住宅ー祇園祭屏風飾りー」特別公開

京都市指定文化財「長江家住宅」の祇園祭宵山の屏風飾りを特別公開します。近年、少なくなってきた祇園祭宵山の屏風祭の風情をお楽しみいただきます。

日 時 7月14日（木）午後1時～午後8時
15日（金）・16日（土）午前10時～午後8時
※受付は、午後7時30分まで

場 所 長江家住宅（京都市下京区新町通仏光寺上ル）
見学料 700円（高校生以上）
※見学料の半額を、長江家住宅の文化財維持管理に充当します。

協 力 京都の文化財を守る会



インターネットホームページをリニュアルしました。

新法人への移行により保護財団のインターネットホームページをリニュアルしました。

今後、事業活動の案内・情報公開や京都の文化財・観光などの情報発信につとめていきますので、ご利用下さい。

URL <http://www.kyobunka.or.jp>



会報の装いを新たにしました。皆様からのお便りなどお寄せ下さい。

本号より会報の装いを新たにしました。皆様にご覧頂き易く、また掲載する様々な文化財をより一層理解していただき易いように誌面を大きく、カラー刷りにしました。今後とも誌面の充実に取り組んでまいりますのでご愛読下さい。

又、皆様からの京都の文化財や観光などに関するお便りや保護財団の事業活動に対するご意見・ご感想・ご提案などお寄せ下さい。

京都市文化財ブックス第25集

『写真でたどる祇園祭山鉾行事の近代』が発刊されました

「京都祇園祭の山鉾行事」のユネスコ無形文化遺産への登録を記念し、近現代における同行事を、写真資料で紹介した京都市文化財ブックス第25集『写真でたどる祇園祭山鉾行事の近代』が、京都市から発刊されました。会員の皆様で頒布をご希望の方は、事務局までご連絡下さい。

- 規格 A4版、カラー、111頁
- 価格 1,500円

(送付の場合は、別に送料が必要になります)



ご支援・ご協力ありがとうございました

特別寄附金・一般寄附金・基金寄附金 芳名録 (2011.4 ~ 6.10) (敬称略)

【特別寄附金】

[基本財産寄附]

伊勢 初子 (京都市)

壬生大念佛講 講長 松浦 俊海 (京都市)

[伝統行事・芸能保存執行寄附]

大野 要範 (神戸市)

【一般(会員)寄附金】

濱上 文子 (京都市)

船田 生人 (鳥取県岩見郡)

小野 光枝 (横浜市)

耕納 英一 (京都市)

杉本 昌夫 (京都市)

塩崎 健吉 (京都市)

宮橋 章子 (京都市)

匿名 1名

【京都市文化観光資源保護基金寄附金】

船越 勝博 (京都市)	篠田 優子 (長岡京市)	中村 忠司 (京都市)	東森 治世 (京都市)
和田 秀男 (京都市)	辻 富美 (京都市)	奈良 行博 (大阪市)	藤井 ひさ (京都市)
脇坂 治郎 (東京都)	浅見 恵 (東京都)	江村富美子 (京都市)	堀 雄作 (京都市)
柳井 浩 (摂津市)	岩佐 氏昭 (京都市)	泉工業株式会社 (城陽市)	田村 嘉子 (京都市)
山本 喜康 (京都市)	山内千代子 (長岡京市)	岩城 博 (東京都)	井樋 治正 (下野市)
安田 守男 (京都市)	前川紀代子 (神戸市)	石丸 澄子 (茨城市)	野嶋 義治 (京都市)
高森 武子 (向日市)	糟谷 範子 (京都市)	石丸 善雄 (茨城市)	早 厚子 (京都市)
品川 照子 (京都市)	井口賢太郎 (京都市)	山下 玲子 (京都市)	
黒沢嘉世子 (名古屋市)	今野 勇一 (高槻市)	堀富 佐子 (京都市)	

※本号より特別寄附金、一般寄附金にご寄附をいただきました皆様のご芳名を掲載させていただきます。ご芳名は、寄附受納日順に掲載しています。

京都市文化観光資源保護財団 会報 No. 101
発行日 / 2011年(平成23年)7月1日
会報題字 / 理事長 山口昌紀

印 刷 / 株式会社 図書印刷 同朋舎
編集・発行 / 公益財團法人 京都市文化観光資源保護財団 事務局
TEL 075(752)0235 http://www.kyobunka.or.jp
京都市左京区岡崎最勝寺町13 京都会館内 TEL 075(752)0235 http://www.kyobunka.or.jp